

〈論 文〉

監査上の主要な検討事項（KAM）に関連する文献レビューと 日本における KAM の早期適用の状況

佐久間義浩*

I はじめに

2018年7月，企業会計審議会は，監査基準を改訂し，金融商品取引法上の監査人の監査報告書において，「監査上の主要な検討事項」（Key Audit Matters: 以下，KAM¹⁾という)の記載を義務付けた²⁾。開示義務の対象となる企業は，2021年3月期決算から始まる強制適用に向けて，その対応に追われている。

日本公認会計士協会は，監査基準の改訂を受け，「東証一部上場企業の監査において前向きに早期適用に向けた検討を行い，より良い『監査上の主要な検討事項』の先行実務を積み上げていくことが本制度の有意義かつ円滑な導入につながると考え」，KAMの早期適用を促す会長声明を公表している（日本公認会計士協会，2018）。そのためか，2020年3月期決算企業の中でも，一部の企業において，積極的にKAMの開示が行われている³⁾。

こうした監査報告書改訂の動向は，我が国独自のものではなく，世界的な潮流である⁴⁾。そのため，先行して実施されたKAMに関しては，さまざまな国々を対象として，多角的な視点から，多くの研究が行われている。こうした先行研究をサーベイすることによって，KAMの開示がもた

* 東北学院大学経営学部教授

- 1) 周知のように，アメリカではCAM (Critical Audit Matters: 以下，CAMという)の開示が求められるようになった。KAMとCAMには若干の相違があるものの，本稿では，KAMとCAMを区別することなく，KAMに統一して記述することにする（両者の相違については，CAQ, 2018 pp. 7-9 参照）。
- 2) 企業会計審議会は，監査人による監査に関する説明及び情報提供の一層の充実を図る観点から，監査報告書における意見の根拠の記載や監査人の守秘義務に関する論点について審議を行い，2019年9月，「監査基準の改訂に関する意見書」を公表した。あわせて，中間監査（四半期レビュー）報告書の記載区分等，継続企業の前提及び無限定適正意見以外の場合の監査報告書の記載に関する事項について改正を行う目的で，「中間監査基準の改訂に関する意見書」及び「四半期レビュー基準の改訂に関する意見書」を公表した。また，企業会計審議会では，2020年11月，その他の記載内容及びリスク・アプローチに関して監査基準の改訂を行っている。
- 3) なお，2020年3月期決算以前に，自主的にKAMを開示している企業もある（三菱ケミカルホールディングスは，2019年3月期において「監査上の主要な検討事項に相当する事項」を，キヤノンは，2019年12月期に日本で初めてKAMを開示している）。
- 4) こうした改革の背景には，監査報告書のボイラープレート化がある。ボイラープレート化した監査報告書は，シンボルとしての価値はあるものの，ほとんどコミュニケーティブな価値がない（Church et al., 2008 p. 85; Coram, 2014 p. 290; Mock et al., 2013 p. 345）。そのため，「監査についての情報を加えることによって，監査報告書に潜在的な価値を加える」（Mock et al., 2013 p. 345）という目的で，監査報告書の拡充に向けた改革が行われている。

らす影響を早い段階で把握できると考える。さらに、こうした先行研究から得られた結果をもとに、日本においても、今後、制度の運用や改正にあたって参考となる証拠を提供することができると思慮される。

本稿では、KAMに関連する先行研究のサーベイによって、これまでどういった研究が行われ、そして何が明らかにされてきたかを示す。さらに、先行研究の中でも、アーカイバルデータに基づく研究は、これまでどういった国々を対象としてきたかについても考察する。あわせて日本におけるKAMの早期適用の状況を概説する。

本稿の構成は、以下のとおりである。次節では、KAMに関連する先行研究をサーベイする。続く第Ⅲ節では、日本におけるKAMの早期適用企業の開示状況を概説する。最後に、第Ⅳ節で本稿をまとめる。

本稿での考察が、2021年3月期決算から日本でも強制適用されるKAMの影響についての理解を促す機会を提示し、日本において情報価値のあるKAMの開示を目指すとともに、KAMの開示をきっかけとして、日本における監査の社会的な認知度を高める一助となれば幸いである。

Ⅱ KAMに関連する先行研究のレビュー—実験研究とアーカイバルデータに基づく研究を中心に—

KAMに関する学術的な研究⁵⁾は、これまでKAMについて何を明らかにしてきたのだろうか。本節では、「監査研究の大多数で用いられ」(Simnett and Trotman, 2018 p. 56)、「その存在を抜きにしては会計研究の意義を語ることができないほど、今日の会計研究の圧倒的な主流を形成している」(藤井, 2007 165 ページ) 実証研究に焦点をあて、その中でも、実験研究とアーカイバルデータに基づく研究を中心にレビューを行う⁶⁾。

なお、本節で取り上げた先行研究のセレクションは、以下のように行われた。まず EBSCOhost Business Source Complete, ProQuest Central, ScienceDirect, Wiley Online Library において、キーワード検索 (“Audit Matter”, “KAM”, “CAM”, “Audit Report”) を行った。あわせて、the Social Science Research Network (SSRN) に掲載されている文献についても同様の調査を行っている。なお調査対象は、2014年1月⁷⁾から2020年9月末⁸⁾までに公開された論文とした⁹⁾。

5) 強調事項の開示に関する研究として、Kelton and Montague (2018) 参照。

6) 本稿では、ページ数の関係で割愛するものの、たとえば、Mock et al. (2013) などの監査報告書の拡充に関する一連の調査報告がある。また、KAMに関する各国の制度を比較している研究として、林編 (2019) や松本ほか (2020) がある。なお日本で行われているKAMに関連する研究状況については、佐久間 (2020) 参照。

7) 2014年を調査開始時点とした理由は、2013年にイギリスでKAMが導入され、ある程度実態の把握が可能になったことに加え、KAMを主題とした実験研究が査読誌に掲載された最初の年のためである。

8) 調査対象期間に公表されたSSRNに掲載されている論文については、2020年12月15日までに改訂版がアップロードされている場合、適宜、フォローしている。

9) なお、2007年から2015年半ば、とくに2011年以降に焦点をあてたサーベイ論文としては、Bédard et al. (2016) 参照。

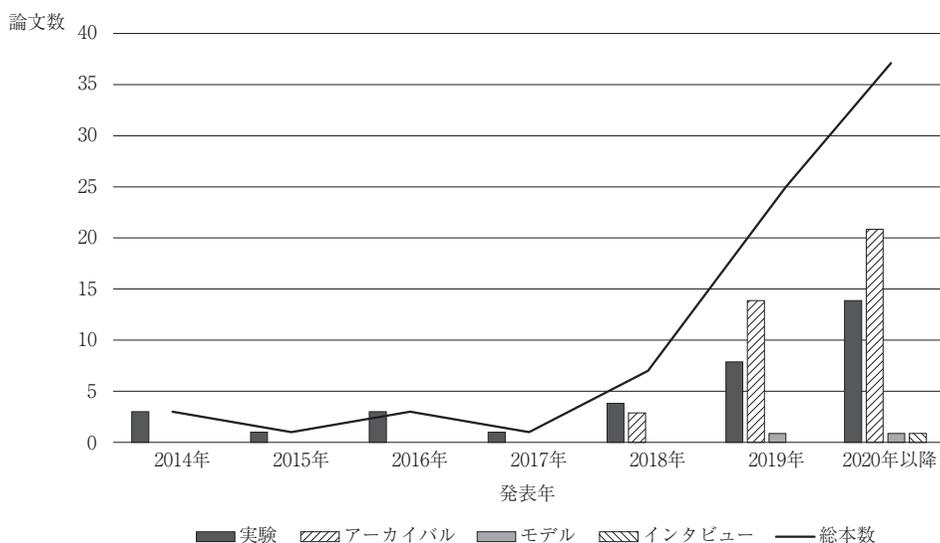


図1 KAMに関する公表論文数の推移

注：2020年以降に区分した論文には、2020年10月末現在、アクセプトされているものの、ジャーナルの掲載時期が未定の論文を含む。

出所：筆者作成。

表1 調査対象の掲載ジャーナル（2014年1月～2020年9月）

ジャーナル名	本数
Accounting Review	6
International Journal of Auditing	5
Accounting, Organizations and Society	3
Auditing: A Journal of Practice & Theory	3
Contemporary Accounting Research	2
European Accounting Review	2
Journal of Applied Accounting Research	2
Revista Contabilidade & Finanças	2
その他	21
SSRN	29
合計	75

注：その他に区分された論文は掲載本数が1本のジャーナル（Accounting Horizons; Accounting in Europe; Advances in Accounting; Behavioral Research in Accounting; Review of Accounting Studies など）である。

出所：筆者作成。

本稿で調査対象とした公表論文数の推移については、図1のとおりである。図1から、公表論文数は、増加の傾向を示している。とくに2018年以降の増加が顕著である¹⁰⁾。また、表1から、公表論文の多くは、まだワーキングペーパーの状態である。しかし、アクセプトされた論文は、トッ

プジャーナルへの掲載も多いことが読み取れる。このことから、KAMに関連する研究は重要度の高いテーマであると解釈できる。

1 実験研究

KAMに関連する実験研究は、2014年から2017年にかけて、アーカイバルデータに基づく研究と比べて多い(図1参照)。こうした背景として、KAMを導入してから間もないため、そもそもアーカイバルデータの入手が困難であることがあげられる。とはいえ、各国でもKAMの導入が濃厚な状況で、どういったKAMを開示すれば、どのような利害関係者に、どれだけの影響を与えるかについての何らかの証拠を示すことができれば、KAMの開示制度を構築するにあたり有用となりうるのは想像に難くない。そこで自然実験による成果を待たずに、特定の実験環境を設定し、異なる条件を与えることによって、制度の運用前にKAMに関する分析を積極的に行ってきたと推察される。

こうしたKAMに関連する実験研究では、主にKAMの開示内容あるいは利用者の特性の違いによって、それぞれが、どういった影響の違いを生じさせるかを検証している。あわせてKAM導入によって監査報告書の情報価値が高まるのかどうか、あるいは監査報告書の利用者のKAMについての理解度についても分析している。

以下では、KAMに関わる利害関係者を、企業外部の情報利用者、経営者・監査委員、監査人、陪審員に分け、それぞれの利害関係者に対するKAMの影響をまとめる。

(1) 企業外部の情報利用者への影響

情報利用者への影響を分析している研究の中でも、とりわけ投資家に関する研究が多い(*Bal-lou, et al., 2019*¹¹); *Christensen, et al., 2020*; *Christensen, et al., 2014*; *Eililfsen, et al., 2019*; *Elliott, et al., 2020*; *Hoang and Phang, 2020*; *Kipp and Gaynor, 2020*; *Köhler, et al., 2020*; *Moroney, et al., 2020*; *Ozlanski, 2019*; *Rapley, et al., 2020*)。また、債権者への影響(*Boo-laky and Quick, 2016*; *Trpeska, et al., 2017*)やKAMの情報利用者全般に対する影響

(*Baskerville, et al., 2018*; *Coram and Wang, Forthcoming*; *Dennis, et al., 2019*; *Doxey, 2015*; *Sirois, et al., 2018*)を分析している研究もある。

こうした研究の結果は、概ねKAMを開示することによる影響が確認されている¹²⁾。

(2) 経営者・監査委員への影響

KAMを開示することによる企業内部の関係者、とりわけ経営者(*Bentley, et al., Forthcoming*;

10) SSRNに公表されている論文について、公表時期を、SSRNに初めて掲載した年で集計したところ、同様の結果であった。しかし、2018年に公表された論文数は、実験研究よりも、アーカイバルデータに基づく研究の方が多いという結果であった。

11) イタリアック体で記載された文献は、SSRNに掲載されている論文(ワーキングペーパー)を示している。

12) 逆に、KAMの開示は、洗練された投資家(*Christensen, et al., 2020*)や財務諸表の知識を有する利用者(*Baskerville, et al., 2018*)に対し影響を与えないとする研究や、KAMの開示により期待ギャップが広がることを指摘した研究(*Coram and Wang, Forthcoming*)、KAMの個数が複数の場合、かえって利用者の注意が低下する(*Sirois, et al., 2018*)というネガティブな発見もある。

Cade and Hodge, 2014; Gold, et al., 2020; *Klueber, et al.*, 2018) あるいは監査委員 (Kang, 2019) への影響についても分析されている。いずれの研究も、KAM の開示による影響を指摘している。

(3) 監査人への影響

KAM を開示することによって、監査人の行動や判断にも直接的な影響があるのであろうか。そういった問題意識のもと、多数の研究が行われている (Asbahr and Ruhnke, 2019; *Cade and Hodge*, 2014; Ratzinger-Sakel and Theis, 2019; *Reid, et al.*, 2020; Wright and Wright, 2014)。

その結果、KAM の開示は、監査人の行動や判断に影響を与えることが明らかになった¹³⁾。しかし、監査人の懐疑的な行動の有意な減少 (Asbahr and Ruhnke, 2019; Ratzinger-Sakel and Theis, 2019) や監査人のモラル・ライセンシング効果 (Asbahr and Ruhnke, 2019; Ratzinger-Sakel and Theis, 2019; *Reid, et al.*, 2020) というネガティブな効果が指摘されている。

(4) 陪審員¹⁴⁾への影響

KAM を開示したことによる陪審員への影響も検証されている。たとえば、KAM の開示は、陪審員の過失認定や賠償額に関する判断に影響を与えるという研究¹⁵⁾ (*Backof, et al.*, 2020; *Ballou, et al.*, 2019; Brasel et al., 2016; Brown, et al., 2020; Gimber et al., 2016; Kachelmeier, et al., Forthcoming; *Owens, et al.*, 2020; Vinson et al., 2019) や影響しないという研究 (Gimber et al., 2016) など、さまざまな結果を得ている。

2 アーカイバルデータに基づく研究

この研究は、アーカイバルデータを必要とするため、KAM を導入した開示実績のある国々を対象とした分析に限られたものにならざるを得ない。そのため、先行して KAM を導入したイギリスに関する研究が中心となっている¹⁶⁾。しかし、昨今、KAM の開示は、アメリカや中国を含め、諸外国においても行われるようになったため、徐々にではあるものの様々な国々を対象とした研究成果が蓄積されつつある。

以下では、アーカイバルデータをベースとした先行研究を、KAM の開示による利害関係者 (企業外部の情報利用者、経営者、監査人) への影響に関する研究、KAM を記載した監査報告書の情報価値に関する研究、KAM の開示要因を検証した研究、その他の観点からの研究に分け説明する。さらに、KAM に関するアーカイバルデータに基づく研究がどういった国々を調査対象として

13) Asbahr and Ruhnke (2019) は、KAM の開示が、監査人の監査努力に影響を与えていないことを指摘している。

14) その他に、不正や誤謬の虚偽記載があった場合に、KAM を開示したことによる監査人の責任について、監査の経験を有する実験参加者の評価を分析している研究がある (Pratoomsuwan and Yolrabil, 2020)。その結果、虚偽表示が不正に関連している場合よりも、誤謬に関連している場合、監査人の責任をより重く評価し、さらに KAM の開示は不正の場合にのみ監査人の責任が軽減されることを明らかにした。

15) KAM の開示が陪審員の判断に影響したとする研究の中でも、過失認定や損害賠償額の決定にあたっての効果は、初期条件の違いにより、一様に定まっていない。

16) フランスについては、評価についての説明の影響を検証している。なお、フランスにおける実証研究の結果から、評価についての説明が、監査の品質を改善していないことが指摘されている (Bédard et al., 2016 p. 263)。

いるかについても明らかにする。

(1) 企業外部の情報利用者への影響

企業外部においてKAMに関する情報を利用する主体として、投資家やアナリスト、債権者が存在する。その中でも先行研究の多くは、投資家への影響を分析している。

以下では、投資家と投資家以外の外部の情報利用者（債権者、アナリスト）に分けて概説する。

投資家への影響

財務報告利用者である投資家に対する影響として、KAMの開示と株価（異常リターンを含む）¹⁷⁾との関係が検証されている（*Almulla and Bradbury*, 2019; *Alves and Galdi*, 2020; *Bédard et al.*, 2019; *Burke et al.*, 2020; *Files and Gencer*, 2020; *Gutierrez et al.*, 2018; *Klevak et al.*, 2020a; *Klevak et al.*, 2020b; *Lennox et al.*, 2019; *Liao et al.*, 2019; *Rousseau and Zehms*, 2020; *Suttipun*, 2020）。結果は、株価に影響しないとする研究（*Almulla and Bradbury*, 2019; *Bédard et al.*, 2019; *Burke et al.*, 2020; *Files and Gencer*, 2020; *Gutierrez et al.*, 2018; *Lennox et al.*, 2019; *Liao et al.*, 2019）もあれば、株価への影響を示した研究（*Alves and Galdi*, 2020; *Burke et al.*, 2020; *Klevak et al.*, 2020a; *Klevak et al.*, 2020b; *Rousseau and Zehms*, 2020; *Suttipun*, 2020）も示されている。

同様に、KAMの開示による株式の取引量への影響についても検証されている（*Altawalbeh and Alhajaya*, 2019; *Bédard et al.*, 2019; *Files and Gencer*, 2020; *Goh et al.*, 2020; *Gutierrez et al.*, 2018; *Liao et al.*, 2019; *Zhou et al.*, 2020）。その結果、KAM開示の影響があるとする研究（*Altawalbeh and Alhajaya*, 2019; *Goh et al.*, 2020; *Zhou et al.*, 2020）もあれば、影響しないという研究（*Bédard et al.*, 2019; *Files and Gencer*, 2020; *Gutierrez et al.*, 2018; *Liao et al.*, 2019）もある。

このようにKAMを開示したことによる投資家への影響は定まっていない状況である。

投資家以外の外部の情報利用者への影響

投資家以外の企業外部の情報利用者として、債権者やアナリストが存在する。たとえば、債権者への影響として、貸付期間の観点から検証した研究に、*Porumb et al.* (2018) がある。*Porumb et al.* (2018) は、拡張した監査報告書の採用とシンジケートローンの貸付期間との間に有意に関連があることを指摘している。

また、アナリストへの影響については、アナリスト予想の観点から、両者の有意な関係を示す研究（*Klevak et al.*, 2020a; *Klevak et al.*, 2020b; *Reid et al.*, 2019）もあれば¹⁸⁾、影響しないとする研究（*Burke et al.*, 2020）もある。

さらにKAMの開示と資本コストの有意な関係についても発見されている（*Zhou*, 2019）。

このようにKAMを開示したことによる投資家以外の情報利用者については、概ね有意な影響

17) 株価の他に、利益反応係数（Earnings Response Coefficients: ERC）との関係も指摘されている（*Goh et al.*, 2020; *Reid et al.*, 2019）。

18) しかし、結果について、KAMがどのようにアナリストの業績予想に反映されているのか不明であり、かつ効果の原因が監査人主導によるものなのか、それともイギリスのガバナンス改革による影響で、取締役会や経営陣がより無条件に保守的になった結果なのかを判断できないという指摘もある（*Reid et al.*, 2019 p. 1538）。

を析出している。

(2) 経営者への影響

特定の KAM の領域の開示とそれに伴う経営者行動の変化についての研究がある (*Almulla and Bradbury, 2019; Andreicovici et al., 2020; Burke, et al., 2020; Drake, et al., 2020; Lynch, et al., 2020*)。結果は、棚卸資産 (*Almulla and Bradbury, 2019*)、のれんの減損 (*Andreicovici et al., 2020*)、税務 (*Drake, et al., 2020; Lynch, et al., 2020*) に関する KAM の領域を開示したことにより、財務報告の開示内容や経営者の実態的な行動が有意に変更されたことが指摘されている。

また KAM の開示と財務諸表の脚注における開示内容の変更との関係を分析している研究もある (*Burke, et al., 2020*)。その結果、KAM によって参照される脚注の量が有意に増加していることが示された。

さらに KAM の個数と経営者の賠償責任保険の金額との有意な正の関係を指摘した研究もある (*Lin et al., 2020*)。

このように KAM の開示は、財務諸表作成者である経営者の行動に有意な影響を与えていることが明らかにされている。

(3) 監査人への影響

KAM の開示は、監査人に影響を与えるであろうか。監査人への影響については、KAM の開示が、直接、監査人の行動に影響を与えているかどうかを検証した研究 (*Marques, et al. 2019*)、監査報酬 (*Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke et al., 2020; Chen, et al., 2020; Ferreira and Morais, 2020; Gutierrez et al., 2018; Li et al., 2019; Liao et al., 2019; Pinto and Morais, 2019; Reid et al., 2019; Rousseau and Zehms, 2020*) や監査の品質 (*Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke, et al., 2020; Ferreira and Morais, 2020; Grosu, et al., 2020; Gutierrez et al., 2018; Kitiwong and Sarapaivanich, 2020; Li et al., 2019; Liao et al., 2019; Reid et al., 2019; Rousseau and Zehms, 2020; Santos et al., 2020*) への影響を通じて、間接的に監査人への影響を分析している研究がある。また、開示された KAM を基に監査事務所間の違いを明らかにしようとする研究 (*Abdullatif and Al-Rahahleh, 2020; Ferreira and Morais, 2020; Sierra-Garcia et al., 2019; Tušek and Ježovita, 2018; Wu et al., 2019*) もある。

監査人の行動への影響

KAM を開示することによって、直接、監査人の行動が変化したかどうかについて検証した研究として、*Marques, et al. (2019)* がある。*Marques, et al. (2019)* は、KAM の開示前後を比較することにより、KAM の開示による監査手続の工数への影響を調査している。その結果、KAM の開示により、監査人は、評価について懐疑的になるとともに、監査手続の工数を増加させたことが明らかになった。

監査報酬への影響

KAM の開示と監査報酬との関係についても多くの分析が行われているものの、見解が分かっている (*Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke et al., 2020; Gutierrez et al., 2018; Li et*

al., 2019; Liao et al., 2019; Reid et al., 2019)。すなわち KAM の開示と監査報酬との関係を見いだせない研究 (Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke et al., 2020; Gutierrez et al., 2018; Liao et al., 2019; Reid et al., 2019) もあれば、監査報酬を増加させることを示した研究 (Li et al., 2019) もある。

しかし、KAM の個数と監査報酬との関係については、多くの研究で有意な関係が指摘されている¹⁹⁾ (Almulla and Bradbury, 2019; Burke, et al., 2020; Ferreira and Morais, 2020; Pinto and Morais, 2019; Rousseau and Zehms, 2020) もの、一部の研究で影響しないという結果 (Burke, et al., 2020; Li, et al., 2019) もある。

さらに KAM の記載内容と監査報酬の関係についても詳細な分析が行われている。その結果、不確実性を示す程度が高い内容 (Burke, et al., 2020) や統制リスクの懸念事項を記載した内容 (Chen, et al., 2020)、複雑・訴訟的・弱いトーンの内容 (Chen, et al., 2020) の KAM の開示や KAM の領域 (Rousseau and Zehms, 2020) と監査報酬との関係は、有意に正の関係にあることが明らかにされている。逆に、業界の同業他社との類似性がある場合は監査報酬が減少している (Chen, et al., 2020)。また KAM の長さや監査報酬との間に正の関係を指摘する研究 (Chen, et al., 2020) がある一方、影響しないとする研究 (Li, et al., 2019) もある。

監査事務所間の相違

KAM の開示について監査事務所間の相違が指摘されている²⁰⁾ (Abdullatif and Al-Rahahleh, 2020; Ferreira and Morais, 2020; Sierra-Garcia et al., 2019; Tušek and Ježovita, 2018; Wu et al., 2019)。たとえば Sierra-García, et al. (2019) は、開示された KAM の内容の観点から、Deloitte (Deloitte Touche Tohmatsu), EY (Ernst & Young), KPMG が PwC (PricewaterhouseCoopers) よりもエンティティレベルのリスクの KAM を報告する傾向があり、KPMG と BDO (BDO International) は PwC よりも勘定レベルのリスクの KAM を報告する傾向があることを指摘した。また、Abdullatif and Al-Rahahleh (2020), Ferreira and Morais, 2020, Tušek and Ježovita, (2018) や Wu (2019) は、大手監査法人と中小監査法人との違いを明らかにしている。

このように KAM を開示したことによる監査人への影響、とりわけ監査報酬の影響については、一部の研究で影響を指摘しているものの、結果は定まっていない状況である。しかし、KAM の個数や内容にまで踏み込んだ研究では、概ね有意な結果を得ている。さらに KAM の開示について監査事務所間での相違が明らかにされている。

監査の品質への影響

「監査品質は多面的で複雑な主題であり、国際的にも確立した監査品質の定義は存在しない」(日

19) KAM の個数と監査報酬との関係を検証した結果の多くは、正の関係が指摘されているが (Almulla and Bradbury, 2019; Burke, et al., 2020; Pinto and Morais, 2019; Rousseau and Zehms, 2020)、一部で、負の関係も示されている (Ferreira and Morais, 2020; Pinto and Morais, 2019)。

20) 各国の KAM の開示状況を調査した報告書においても KAM の開示について監査事務所間の相違を認めることができる (たとえば、FRC, 2015; HKICPA, 2018)。

本公認会計士協会, 2015, 4 項)。そのため、先行研究では監査の品質を測定するにあたって多数の代理変数を使用しているものの、どの測定方法が最良であるかについてのコンセンサスはない (DeFond and Zhang, 2014, p. 280)。

KAM に関連する先行研究においても、この傾向は同様で、監査の品質を示す代理変数として、裁量的会計発生高、修正再表示、監査意見、監査ラグを用いることによって、KAM と監査の品質との関係を分析している。

たとえば、KAM の開示による監査の品質への影響として、裁量的会計発生高を代理変数とした研究がある (Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke, et al., 2020; Gutierrez et al., 2018; Li et al., 2019; Liao et al., 2019; Reid et al., 2019; Rousseau and Zehms, 2020; Santos et al., 2020)。その結果、KAM の効果を確認できなかった研究 (Almulla and Bradbury, 2019; Bédard et al., 2019; Burke, et al., 2020; Gutierrez et al., 2018; Liao et al., 2019; Rousseau and Zehms, 2020) が多くあったものの、裁量的会計発生高を改善させることを指摘した研究 (Li et al., 2019; Reid et al., 2019; Santos et al., 2020) もある²¹⁾。

同様に、修正再表示 (Kitiwong and Sarapaivanich, 2020) や監査意見 (Ferreira and Morais, 2020; Grosu, et al., 2020) と KAM との関係が指摘されているものの、監査ラグ (Audit lag) については影響しない (Almulla and Bradbury, 2019; Bédard, et al., 2019; Reid, et al., 2019; Rousseau and Zehms, 2020) という結果であった。

このように KAM を開示したことによる監査の品質への影響については、代理変数によって影響が指摘されている研究があるものの、結果は定まっていない状況である。

(4) KAM を記載した監査報告書の情報価値

KAM を記載した監査報告書の情報価値の観点からは、KAM の情報価値を見いだせないとする研究 (Bédard et al., 2019; Files and Gencer, 2020; Gutierrez et al., 2018) があるものの²²⁾、KAM の領域 (買収 (Kitiwong and Sarapaivanich, 2020); 資産の減損 (Wu, et al., 2019)) によっては情報内容があることが指摘されている。

さらに、テキスト分析の手法を用い、KAM の記載内容がボイラープレート化しているかどうかや KAM の可読性、ひいては監査報告書の読みやすさについての検証が行われている。

監査報告書のボイラープレート化

KAM の記載内容がボイラープレート化しているかどうかについて研究が行われている (Burke, et al., 2020; Rousseau and Zehms, 2020)。

その結果、いずれの研究も監査報告書のボイラープレートを支持する証拠は得られていない。とくに Rousseau and Zehms (2020) は、監査パートナーレベルで分析を行い、監査報告書の開示内

21) KAM の個数と裁量的会計発生高との関係を分析した研究もある (Santos et al., 2020)。Santos et al. (2020) は、KAM の個数とアーニングスマネジメントとの関係を検証している。その結果、KAM の個数と裁量的会計発生高や裁量的な収益との間の有意な正の関係や裁量的な費用との有意な負の関係を析出した。

22) たとえば Files and Gencer (2020) は、KAM と 10-K に記載されたリスク要因や脚注との類似性を指摘している。

容がパートナー独自の意思決定の表れであることを指摘している。

このような結果から、財務情報利用者にとって、KAMの開示内容は企業によって異なるため、監査報告書の透明性向上に寄与していると指摘される (Ferreira and Morais, 2020)。

監査報告書の可読性

開示されたKAMは、テキスト分析を行うことにより、その可読性についても検証されている (Pinto et al., 2020; Rousseau and Zehms, 2020; Smith, 2019; Velte, 2018; Velte, 2020)。たとえば、会計基準の詳細性等とKAMの開示可能性や監査報告書の可読性との関係を分析している研究がある (Pinto et al., 2020; Rousseau and Zehms, 2020; Smith, 2019)。その結果、Pinto et al. (2020) は、ルールベースの会計基準に基づいたKAMの開示が、監査報告書の可読性を低下させることを示した。また、Smith (2019) は、ISA700の適用後の監査報告書は読みやすく、財務諸表監査のリスク関連性をよりよく反映していることを明らかにした。さらにRousseau and Zehms (2020) は、総資産の規模や収益の大きさがKAMの可読性を高める要因となりうることを指摘した。

さらに監査委員会を構成する監査委員の特性とKAMの可読性との関係について分析した研究 (Velte, 2018; Velte, 2020) がある。その結果、監査委員会における女性の割合 (Velte, 2018) や監査委員の財務・業界の専門性 (Velte, 2020) が高いほど、KAMの可読性が高いことが示された。

このようにKAMを開示したことによる監査報告書の情報価値への影響については、情報価値を示す研究があるものの、情報価値を高めないという研究もある。さらにKAMの記載内容に踏み込んで、KAMがボイラープレート化しているかどうかについての研究やKAMあるいは監査報告書の可読性についての研究、さらに可読性に影響を与える要因に関する研究が行われている。

(5) KAMの開示要因

KAMを開示する要因として、何が考えられるだろうか。たとえばKAMの開示の有無と会計基準の特性との関係を検証した研究として、Pinto, et al. (2020) がある。Pinto, et al. (2020) は、会計基準が詳細に規定されるほど、KAMを開示する傾向にあることを明らかにした。また、税務回避が大きく、変動性の高い実効税率の企業ほど、税務関連のKAMが開示される可能性が高いことが示された (Lynch, et al., 2020)。

さらにKAMの個数とその要因についても検証されている (Burke, et al., 2020; Ferreira and Morais, 2020; Pinto and Morais, 2019)。その結果、KAMの個数とクライアントの複雑性 (Burke, et al., 2020; Ferreira and Morais, 2020; Pinto and Morais, 2019) をはじめ、高度な判断を必要とする勘定の大きさ・最近の財務報告の問題を抱えている事業体 (Burke, et al., 2020) や、クライアントの規模、訴訟リスク、評判損失、会計基準の精度、規制当局や監督当局の活動 (Pinto and Morais, 2019) で正の関係を示している²³⁾。また監査人がBig 4の場合もKAMの個数と正の関係が指摘されている (Ferreira and Morais, 2020)。

このようにKAMの開示要因については、クライアントの特性、監査人の規模、会計基準の詳細性などが明らかにされている。

23) 逆に、KAMの個数と収益性や業種(金融機関)で負の関係が示されている (Pinto and Morais, 2019)。

(6) その他の観点からの研究

その他の観点からの分析として、企業を取り巻く情報環境に焦点をあて、異なる情報環境にある企業ごとの KAM の導入による影響の違いを検証した (Zhou, 2019)。その結果、情報環境の良い企業ほど、KAM の開示の影響を受けにくいことが指摘された。

(7) アーカイバルデータに基づく研究の調査対象国

先行研究では、これまで、どういった国々を対象として研究されたであろうか。図 2 は、アーカイバルデータに基づく研究の調査対象国を示している²⁴⁾。その結果、イギリスを対象とした研究が 13 本と最多で、アメリカ²⁵⁾、中国と続いている。なお、日本を対象としたアーカイバルデータに基づく研究論文は、2020 年 9 月末現在、筆者の知る限り、まだ公表されていない。

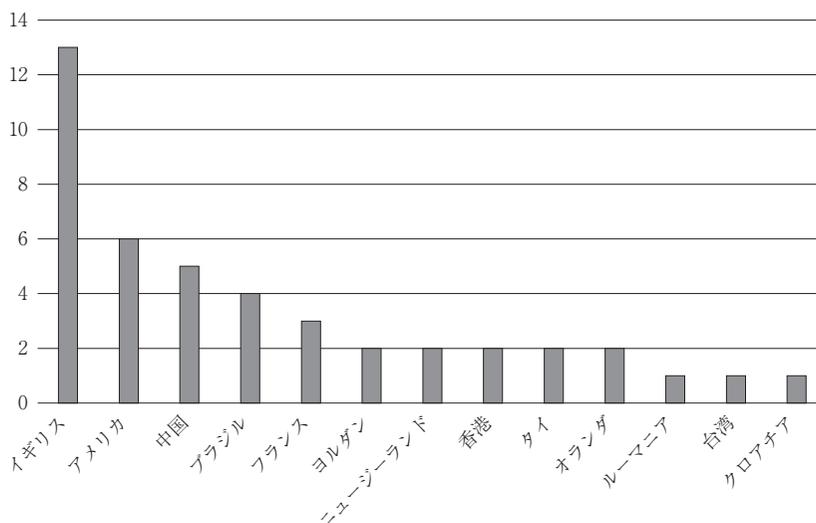


図 2 KAM に関するアーカイバルデータに基づく研究の調査対象国
出所：筆者作成。

3 その他の研究

上記で扱った研究の他に、KAM の開示に関わった当事者へのインタビュー調査 (Abdullatif and Al-Rahahleh, 2020; 日本公認会計士協会, 2020) やアンケート調査 (日本公認会計士協会, 2020) を試みた研究もある²⁶⁾。また、経済理論モデルを構築し、KAM の開示による影響を理論的に分析している研究 (Chen et al., 2019; Deng and Wen, 2020) もある。

24) アーカイバルデータに基づく研究は、実験研究に比して、調査対象国を明確に示している。そのため、国別の集計が行いやすく、本稿での集計が可能となっている。

25) なお、アメリカを対象に分析した研究は、全てワーキングペーパーである。

26) 各国の KAM の開示状況を調査した報告書においても、同様の調査が行われている (たとえば、ACCA et al., 2017; SC et al., 2018)。

インタビュー調査, アンケート調査

Abdullatif and Al-Rahahleh (2020) は、ヨルダンにおける KAM の開示に関与した監査人と取締役へインタビュー調査を行っている。同様に、日本公認会計士協会 (2020) は、KAM の開示に係る監査人や財務諸表利用者に対しインタビュー調査を実施している。

また、日本公認会計士協会 (2020) は、KAM の開示に係る監査人、監査役等及び財務諸表作成責任者にアンケート調査を実施し、KAM の開示実態に迫っている。

モデル分析

Chen et al. (2019) や *Deng and Wen* (2020) は、経済理論モデルを用いて、KAM の影響を分析している。

Chen et al. (2019) は、監査の品質の開示、つまり KAM の開示が投資家の投資効率や監査人の努力にどのような影響を与えるかについて理論的な分析を行っている。その結果、監査の品質の開示は投資家にとって財務報告書の意味決定の有用性を高める一方で、監査人のインセンティブに悪影響を与え、期待される監査の品質と投資効率を低下させる可能性があることを示した。しかし、財務報告の品質が比較的低い場合、監査の品質を開示することによって、監査人が努力するインセンティブとなりうることも指摘した。

また *Deng and Wen* (2020) は、モデルから導き出された研究結果を KAM の規制へ適用させ、監査リスクの開示が市場に多くの情報を提供する一方で、企業と監査人の間の相互作用に影響を与え、企業が財務報告制度の精度を低下させる可能性があることを明らかにした。

4 小括

以上、本節では、2020年9月末までに公表されている KAM に関連する先行研究のレビューを行った。その結果、実験研究では、KAM の開示によって、情報利用者や監査人への影響を指摘した研究が多く占めていた。しかしアーカイバルデータに基づく研究では、KAM の影響を示す結果を得ている研究がある一方、否定的な証拠も数多く示されている。さらに経済モデルに基づく研究では、KAM の開示によって、必ずしも監査の品質を高めないことが示された。

このように先行研究の結果から、KAM の開示による影響は、現段階において、見解が相違している状況にあるといえる。また KAM の導入による影響があるとする研究についても、限定的なものと考えられる。

Ⅲ 日本における KAM の開示状況

ところで、日本における KAM の開示状況はどうなっているであろうか。日本では、2021年3月期より強制適用となるものの、早期適用も可能で、すでに48社で KAM を開示している²⁷⁾ (2020年9月29日現在)²⁸⁾。本節では、日本における KAM の開示状況について、紙幅の関係から、KAM の個数と領域について概説する。

27) 早期適用企業の詳細については、日本公認会計士協会 (2020) 参照。

28) 2020年12月21日現在、KAM の開示企業は、50社である。

(1) KAM の個数

企業ごとに開示された KAM の個数（平均）は、2.2 個²⁹⁾である（表 2 参照）。表 2 から、日本の KAM の個数（平均）は、イギリスの 4.2 個と比べて少ないものの、アメリカの 1.7 個に比べ、若干、多く、諸外国と比べても極端な個数を開示しているわけではないことがわかる。

表 2 1 企業あたりの KAM の個数 (単位：個)

	日本 (連結)	日本 (個別)	オースト ラリア	ブラジル	フランス	香港	マレー シア	オランダ	ニュージ ーランド	シンガ ポール	イギリス	アメリカ
平均	2.2	1.0	3.1	2.4	3.3	2.4	2.1	3.7	2.3	2.3	4.2	1.7
最小	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0
最大	5	3	7	8	8	8	6	8	3	8	10	5

注：アメリカの早期登録大規模会社の KAM の開示状況については、Hollie (2020) 参照。

出所：ACCA, et al. (2017) p. 13, Table 8; *Burke et al.* (2020); CANZ (2016) pp. 4-5; Ferreira and Morais (2020); FRC (2015) p. 14 Table 3; HKICPA (2018) p. 4; Mazers (2018) p. 43; SC, et al. (2018) p. 15, 17; 日本公認会計士協会 (2020) 5 ページより筆者作成。

(2) KAM の領域

KAM で記載された領域については、図 3 のとおりである。図 3 から、開示された KAM の領域は、会計上の見積りに関する領域が多く、その他に収益認識や組織再編に関する領域が上位を占めている。この傾向は、諸外国でも同様である（図 3 参照）³⁰⁾。

29) 数値は、連結財務諸表の監査報告書に記載された KAM の個数の平均値である。なお、個別財務諸表の監査報告書に記載された KAM の個数の平均値は、表 2 より 1.0 個である。

30) 紙幅の関係から、図 3 では、日本の他に、代表的な諸外国として、イギリス、フランスやアメリカにおける KAM の領域を示している。図 3 より、イギリスやアメリカの KAM の領域についても、日本と同様の KAM の領域が開示されていることがわかる。なお本稿で採り上げることができなかった国々の KAM の領域については、佐久間 (2019) 43-44 ページ参照。

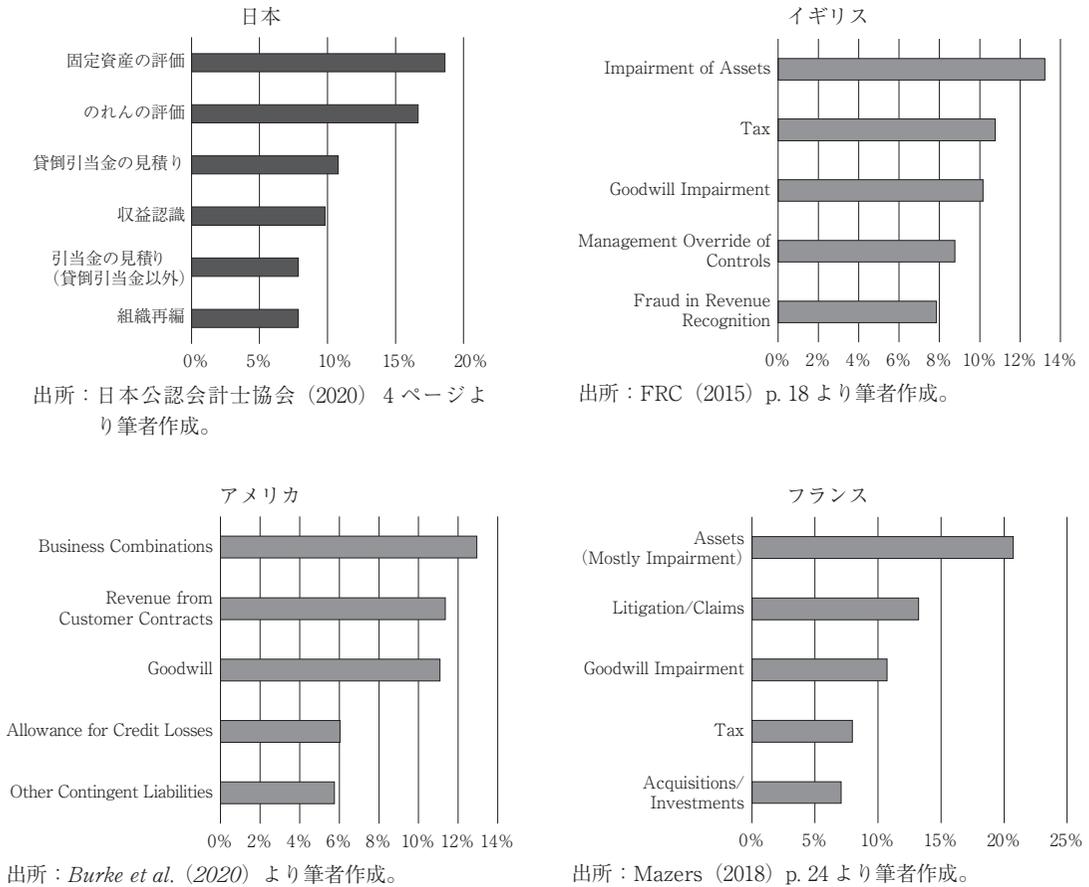


図 3 適用初年度に開示された KAM の領域

Ⅳ おわりに

本稿では、まず KAM に関連する先行研究のサーベイを行った。その結果、実験研究では、KAM の開示による効果を確認することができた。しかし、アーカイバルデータに基づく研究では、一部、KAM の開示による影響が示されたものの、両者の関係を示さない研究も存在する結果であった。また経済モデルに基づく研究結果も、KAM の開示によって、かえって監査の品質が低下するおそれも指摘されている。

さらに、アーカイバルデータに基づく研究で調査対象になった国は、イギリスやフランスに加え、中国やアメリカなどにも広がってきていることが明らかになった。

続く第Ⅲ節では、日本の KAM の早期適用の開示状況を諸外国の KAM の開示状況と比較しつつ概説した。その結果、諸外国とおおむね同様の結果であった。

日本においても KAM の開示は始まったばかりである。2021 年、強制適用に移行されるに伴い、今後、日本でも KAM の開示実績が蓄積されることになるであろう。多くの事例を入手し、すみやかに日本の KAM の開示についての実態調査や実証研究による制度の検証が行われることを期待したい。

参考文献

- Abdullatif, M., and A. S. Al-Rahahleh (2020), Applying a New Audit Regulation: Reporting Key Audit Matters in Jordan. *International Journal of Auditing* 24: 268-291.
- Almulla, M., and M. E. Bradbury (2019), Auditor, Client, and Investor Consequences of the Enhanced Auditor's Report. SSRN-id3165267.
- Altawalbeh, M. A. F., and M. E. S. Alhajaya (2019), The Investors Reaction to the Disclosure of Key Audit Matters: Empirical Evidence from Jordan. *International Business Research* 12(3): 50-57.
- Alves, E. D. J., and F. C. Galdi (2020), The Informational Relevance of Key Audit Matters. *Revista Contabilidade & Finanças* 31(82): 67-83.
- Andreicovici, I., A. Jeny, and D. Lui (2020), Do Firms Respond to Auditors' Red Flags? Evidence from the Expanded Audit Report. SSRN-id3634479.
- Asbahr, K., and K. Ruhnke (2019), Real Effects of Reporting Key Audit Matters on Auditors' Judgment and Choice of Action. *International Journal of Auditing* 23(2): 165-180.
- The Association of Chartered Certified Accountants (ACCA), Accounting and Corporate Regulatory Authority (ACRA), The Institute of Singapore Chartered Accountants (ISCA), and Nanyang Technological University (NTU) (2017), *Embracing Transparency, Enhancing Value — A First Year Review of the Enhanced Auditor's Report in Singapore*.
- Backof, A. G., K. Bowlin, and B. M. Goodson (2020), The Importance of Clarification of Auditors' Responsibilities Under the New Audit Reporting Standards. SSRN-id2446057.
- Ballou, B., J. H. Grenier, and A. Reffett (2019), Stakeholder Perceptions of Data and Analytics Based Auditing Techniques, Working Paper, Miami University.
- Baskerville, R., C. Ó. hÓgartaigh, and B. Porter (2018), The Perceived Message in the Audit Report - An Experimental Exploration. SSRN-id1634478.
- Bédard, J., P. Coram, R. Espahbodi, and T. J. Mock (2016), Does Recent Academic Research Support Changes to Audit Reporting Standards?. *Accounting Horizons* 30(2): 255-275.
- Bédard, J., N. Gonthier-Besacier, and A. Schatt (2019), Consequences of Expanded Audit Reports: Evidence from the Justifications of Assessments in France. *Auditing : A Journal of Practice & Theory* 36(3): 23-45.
- Bentley, J. W., T. A. Lambert, and E. Y. Wang, The Effect of Increased Audit Disclosure on Managers' Real Operating Decisions: Evidence from Disclosing Critical Audit Matters. *Accounting Review* Forthcoming.
- Boolakay, P. K., and R. Quick (2016), Bank Directors' Perceptions of Expanded Auditor's Reports. *International Journal of Auditing* 20(2): 158-174.
- Brasel, K., M. M. Doxey, J. M. Grenier, and A. Reffett (2016), Risk Disclosure Preceding Negative Outcomes: The Effects of Reporting Critical Audit Matters on Judgments of Auditor Liability. *Accounting Review* 91(5): 1345-1362.
- Brown, T., T. M. Majors, and M. E. Peecher (2020), Evidence on How Different Interventions Affect Juror Assessment of Auditor Legal Culpability and Responsibility for Damages after Auditor Failure to Detect Fraud. *Accounting, Organizations and Society* 87: Forthcoming.
- Burke, J. J., R. Hoitash, U. Hoitash, and S. (X). Xiao (2020), The Determinants, Textual Properties, and Consequences of U.S. Critical Audit Matter Disclosures. SSRN-id3635477.
- Cade, N., and F. Hodge (2014), The Effect of Expanding the Audit Report on Managers' Communication Openness. SSRN-id2433641.
- The Center for Audit Quality (CAQ) (2018), *Critical Audit Matters : Key Concepts and FAQs for Audit Committees, Investors, and Other Users of Financial Statements*.
- Chartered Accountants Australia and New Zealand (CAANZ) (2016), *Enhanced Auditor Reporting - One Year on*.
- Chen, J. Z., K. K. Nelson, Y. Wang, and L. Yu (2020), Key Audit Matters and the Pricing of Audit Services: Evidence

- from Hong Kong. SSRN-id3638540.
- Chen, Q., X. Jiang, and Y. Zhang (2019), The Effects of Audit Quality Disclosure on Audit Effort and Investment Efficiency. *Accounting Review* 94(4): 189-214.
- Christensen, B. E., A. Eilifsen, S. M. Glover, and W. F. Messier (2020), The Effect of Audit Materiality Disclosures on Investors' Decision Making. *Accounting, Organizations and Society* 87: Forthcoming.
- Christensen, B. E., S. M. Glover, and C. J. Wolfe (2014), Do Critical Audit Matter Paragraphs in the Audit Report Change Nonprofessional Investors' Decision to Invest?. *Auditing: A Journal of Practice & Theory* 33(4): 71-93.
- Church, B. K., S. M. Davis, and S. A. McCracken (2008), The Auditor's Reporting Model: A Literature Overview and Research Synthesis. *Accounting Horizons* 22(1): 69-90.
- Coram, P. (2014), Audit Reports, in Hay, D., W. R. Knechel, and M. Willekens eds. *The Routledge Companion to Auditing*. Routledge: 289-299.
- Coram, P. J., and L. Wang, The Effect of Disclosing Key Audit Matters and Accounting Standard Precision on the Audit Expectation Gap. *International Journal of Auditing* Forthcoming.
- DeFond, M. and J. Zhang (2014), A Review of Archival Auditing Research. *Journal of Accounting and Economics* 58 (2-3): 275-326.
- Deng, M., and X. Wen (2020), Less is More: Does Audit Risk Disclosure Improve Financial Reporting Precision and the Quality of Audited Financial Reports?. Baruch College Zicklin School of Business Research Paper No. 2020-03-01. SSRN-id3578030.
- Dennis, S. A., J. B. Griffin, and K. M. Zehms (2019), The Value Relevance of Managers' and Auditors' Disclosures About Material Measurement Uncertainty. *Accounting Review* 94(4): 215-243.
- Doxey, M. M. (2015), The Effects of Auditor Disclosures Regarding Management Estimates on Financial Statement Users' Perceptions and Investments. SSRN-id2181624.
- Drake, K. D., N. C. Goldman, S. J. Lusch, and J. J. Schmidt (2020), Have Critical Audit Matter Disclosures Indirectly Benefitted Investors by Constraining Earnings Management? Evidence from Tax Accounts. SSRN-id3606701.
- Eilifsen, A., E. L. Hamilton, and W. F. Messier, Jr. (2019), The Importance of Quantifying Uncertainty: Examining the Effects of Sensitivity Analysis and Audit Materiality Disclosures on Investors' Judgments and Decisions. SSRN-id2966291.
- Elliott, W. B., K. Fanning, and M. E. Peecher (2020), Do Investors Value Higher Financial Reporting Quality, and Can Expanded Audit Reports Unlock This Value?. *Accounting Review* 95(2): 141-165.
- Ferreira, C., and A. I. Morais (2020), Analysis of the Relationship between Company Characteristics and Key Audit Matters Disclosed. *Revista Contabilidade & Finanças* 31(83): 262-274.
- Files, R., and P. Gencer (2020), Investor Response to Critical Audit Matter (CAM) Disclosures. SSRN-id3532754.
- Financial Reporting Council (FRC) (2015), *Extended Auditor's Reports: A Review of Experience in the First*. FRC.
- Gimbar, C., B. Hansen, and M. E. Ozlanski (2016), The Effects of Critical Audit Matter Paragraphs and Accounting Standard Precision on Auditor Liability. *Accounting Review* 91(6): 1629-1646.
- Goh, B. W., D. Li, and M. Wang (2020), Informativeness of the Expanded Audit Report: Evidence from China. Singapore Management University School of Accountancy Research Paper No. 2019-104. SSRN-id3432107.
- Gold, A., M. Heilmann, C. Pott, and J. Rematzki (2020), Do Key Audit Matters Impact Financial Reporting Behavior?. *International Journal of Auditing* 24: 232-244.
- Grosu, M., I.-B. Robu, and C. Istrate (2020), The Quality of Financial Audit Missions by Reporting the Key Audit Matters. *Audit Financiar* 18(157): 182-195.
- Gutierrez, E., M. Minutti-Meza, K. W. Tatum, and M. Vulcheva (2018), Consequences of Adopting an Expanded Auditor's Report in the United Kingdom. *Review of Accounting Studies* 23(4): 1543-1587.
- Hoang, H., and S.-Y. Phang (2020), How Does Combined Assurance Affect the Reliability of Integrated Reports and Investors' Judgments?. *European Accounting Review* Forthcoming.

- Hollie, D. (2020), Early Evidence on the AS 3101 Critical Audit Matters Disclosure. *Journal of Forensic and Investigative Accounting* 12(1): 45-54.
- Hong Kong Institute of CPAs (HKICPA) (2018), *Standard Setting Second Year Review of Enhanced Auditor's Reports*.
- Kachelmeier, S. J., D. Rimkus, J. J. Schmidt, and K. Valentine, The Forewarning Effect of Critical Audit Matter Disclosures Involving Measurement Uncertainty. *Contemporary Accounting Research* Forthcoming.
- Kang, Y. J. (2019), Are Audit Committees More Challenging Given a Specific Investor Base? Does the Answer Change in the Presence of Prospective Critical Audit Matter Disclosures?. *Accounting, Organizations and Society* 77: Forthcoming.
- Kelton, A. S., and N. R. Montague (2018), The Unintended Consequences of Uncertainty Disclosures Made by Auditors and Managers on Nonprofessional Investor Judgments. *Accounting, Organizations and Society* 65: 44-55.
- Kipp, P., and L. M. Gaynor (2020), The Effect of Audit Report Specificity Regarding Critical Audit Matters on Investors' Judgments and Decisions. SSRN-id3644540.
- Kitiwong, W., and N. Sarapaivanich (2020), Consequences of the Implementation of Expanded Audit Reports with Key Audit Matters (KAMs) on Audit Quality. *Managerial Auditing Journal* 35(8): 1095-1119.
- Klevak, J., J. Livnat, D. (S.) Pei, and K. Suslava (2020a), A New Uncertainty Measure - CAM. SSRN-id3659633.
- Klevak, J., J. Livnat, D. (S.) Pei, and K. Suslava (2020b), Are Critical Audit Matters Informative?. SSRN-id3685369.
- Klueber, J., A. Gold, and C. Pott (2018), Do Key Audit Matters Impact Financial Reporting Behavior?. SSRN-id3210475.
- Köhler, A., N. Ratzinger-Sakel, and J. Theis (2020), The Effects of Key Audit Matters on the Auditor's Report's Communicative Value: Experimental Evidence from Investment Professionals and Non-professional Investors. *Accounting in Europe* 17(2): 105-128.
- Lennox, C. S., J. J. Schmidt, and A. M. Thompson (2019), Are Expanded Audit Reports Informative to Investors? Evidence from the U.K.. SSRN-id2619785.
- Li, H., D. Hay, and D. Lau (2019), Assessing the Impact of the New Auditor's Report. *Pacific Accounting Review* 31 (1): 110-132.
- Liao, L., M. Minutti-Meza, Y. Zhang, and Y. Zou (2019), Consequences of the Adoption of the Expanded Auditor's Report: Evidence from Hong Kong. University of Miami Business School Research Paper No. 3392449. SSRN-id3392449.
- Lin, C., S., Hsu, P.-L. Chou, Y.-Y. Chao, and C.-W. Li (2020), The Effects of Directors' and Officers' Liability Insurance on Key Auditing Matters. *Emerging Markets Finance and Trade* 56(5): 977-1002.
- Lynch, D., A. Mandell, and L. M. Rousseau (2020), The Importance of Topical Content in Understanding Expanded Audit Reporting: Evidence from Tax-Related Key Audit Matters. SSRN-id3689349.
- Marques, D. d. S., G. T. Portugal, and S. R. V. Almeida (2019), The Impact Generated by the Key Audit Matters on the Application of Audit Procedures. *European Journal of Scientific Research* 152(2): 144-152.
- Mazars (2018), A Benchmark of Key Audit Matters A Comparative Study Highlighting the Outcome of ISA 701's Application and Its Influences Over the Auditor's Report.
- Mock, T. J., J. Bédard, P. J. Coram, S. M. Davis, R. Espahbodi, and R. C. Warne (2013), The Audit Reporting Model: Current Research Synthesis and Implications. *Auditing: A Journal of Practice & Theory* 32 (Supplement 1): 323-351.
- Moroney, R., S.-Y. Phang, and X. Xiao (2020), When Do Investors Value Key Audit Matters?. *European Accounting Review* Forthcoming.
- Owens, J., K. K. Saunders, S. Schachner, and T. Thornock (2020), The Sound of Silence: What Does a Standard Unqualified Audit Opinion Mean Under the Recent Going Concern Financial Accounting Standard?.

SSRN-id3374039.

- Ozlanski, M. E. (2019), Bright Lines vs. Blurred Lines: When Do Critical Audit Matters Influence Investors' Perceptions of Management's Reporting Credibility?. *Advances in Accounting* 45: Forthcoming.
- Pinto, L., and A. I. Morais (2019), What Matters in Disclosures of Key Audit Matters: Evidence from Europe. *Journal of International Financial Management & Accounting* 30(2): 145-162.
- Pinto, L., A. I. Morais, and R. Quick (2020), The Impact of the Precision of Accounting Standards on the Expanded Auditor's Report in the European Union. *Journal of International Accounting, Auditing and Taxation* 40: Forthcoming.
- Porumb, V. -A., Y. Zengin-Karaibrahimoglu, G. J. Lobo, R. Hooghiemstra, and D. Waard (2019), Is More Always Better? Disclosures in the Expanded Audit Report and their Impact on Loan Contracting. SSRN-id3216492.
- Pratoomsuwan, T., and O. Yolrabil (2020), Key Audit Matter and Auditor Liability: Evidence from Auditor Evaluators in Thailand. *Journal of Applied Accounting Research* 21(4): 741-762.
- Rapley, E. T., J. C. Robertson, and J. L. Smith (2020), The Effects of Disclosing Critical Audit Matters and Auditor Tenure on Investors' Judgments. SSRN-id3294340.
- Ratzinger-Sakel, N. V. S., and J. C. Theis (2019), Does Considering Key Audit Matters Affect Auditor Judgment Performance?. *Corporate Ownership & Control* 17(1): 196-210. SSRN-id3003318.
- Reid, L.C., J. V. Carcello, C. Li, and T. L. Neal (2019), Impact of Auditor Report Changes on Financial Reporting Quality and Audit Costs: Evidence from the United Kingdom. *Contemporary Accounting Research* 36(3): 1501-1539.
- Reid, L. C., M. W. Nelson, and J. V. Carcello (2020), Does Reporting Risks of Material Misstatement in the Audit Report Impact Audit Adjustments?. Experimental Evidence from U.K. Audit Partners and Senior Managers. SSRN-id3439508.
- Rousseau, L. M., and K. M. Zehms (2020), It's a Matter of Style: The Role of Audit Firms and Audit Partners in Key Audit Matter Reporting. SSRN-id3625651.
- Santos, K., R. Guerra, V. Marques, and E. Maria Junior (2020), Do Critical Audit Matters Matter? An Analysis of Their Association with Earnings Management. *Revista de Educação e Pesquisa em Contabilidade* 14(1): 55-77.
- The Securities Commission Malaysia (SC)'s Audit Oversight Board (AOB), the Malaysian Institute of Accountants (MIA) and the Association of Chartered Certified Accountants (ACCA) (2018), *Enhanced Auditors' Report A Review of First-Year Implementation Experience in Malaysia*.
- Sierra-García, L., N. Gambetta, M. A. García-Benau, and M. Orta-Pérez (2019), Understanding the Determinants of the Magnitude of Entity-Level Risk and Account-Level Risk Key Audit Matters: The Case of the United Kingdom. *British Accounting Review* 51(3): 227-240.
- Simnett, R., and K. T. Trotman (2018), Twenty-Five-Year Overview of Experimental Auditing Research: Trends and Links to Audit Quality. *Behavioral Research in Accounting* 30(2): 55-76.
- Sirois, L. -P., J. Bédard, and P. Bera (2018), The Informational Value of Key Audit Matters in the Auditor's Report: Evidence from an Eye-Tracking Study. *Accounting Horizons* 32(2): 141-162.
- Smith, K. W. (2019), Tell Me More: A Content Analysis of Expanded Auditor Reporting in the United Kingdom. SSRN-id2821399.
- Suttipun, M. (2020), KAM Reporting and Common Share Price of Listed Companies in the Market of Alternative Investment from Thailand. *Academy of Accounting and Financial Studies Journal* 24(3): 1-10.
- Trpeska, M., A. Atanasovski, and Z. B. Lazarevska (2017), The Relevance of Financial Information and Contents of the New Audit Report for Lending Decisions of Commercial Banks. *Accounting and Management Information Systems* 16(4): 455-471.
- Tušek, B., and A. Ježovita (2018), The Key Audit Matters As an Element of The Independent Auditor's Report - A Booster to the Corporate Governance. *InterEULawEast: Journal for International & European Law, Economics*

& *Market Integrations* 5(2): 241-276.

- Velte, P. (2018), Does Gender Diversity in the Audit Committee Influence Key Audit Matters' Readability in the Audit Report? UK Evidence. *Corporate Social Responsibility and Environmental Management* 25(5): 748-755.
- Velte, P. (2020), Associations between the Financial and Industry Expertise of Audit Committee Members and Key Audit Matters within Related Audit Reports. *Journal of Applied Accounting Research* 21(1): 185-200.
- Vinson, J. M., J. C. Robertson, and R. C. Cockrell (2019), The Effects of Critical Audit Matter Removal and Duration on Jurors' Assessments of Auditor Negligence. *Auditing: A Journal of Practice & Theory* 38(3): 183-202.
- Wright, A. M., and S. Wright (2014), Modification of the Audit Report: Mitigating Investor Attribution by Disclosing the Auditor's Judgment Process. *Behavioral Research in Accounting* 26(2): 35-50.
- Wu, X., Y. Fan, and Y. Yang (2019), Do Critical Audit Matters Signal Higher Quality of Audited Financial Information? Evidence from Asset Impairment. *China Journal of Accounting Studies* 7(2): 170-183.
- Zhou, H., H. Sami, and Z. Hu (2020), Critical Audit Matters, Cross Listings and Trading Volume: Evidence from Emerging Markets. SSRN-id3697579.
- Zhou, M. (2019), The Effect of Key Audit Matters on Firms' Capital Cost: Evidence from Chinese Market. SSRN-id3470587.
- 佐久間義浩 (2019) 「各国における KAM の開示実態と学術的研究の動向—KAM 研究における新たな研究機会の提示—」『現代監査』第 29 号, 42-54 ページ。
- 佐久間義浩 (2020) 「監査上の主要な検討事項（KAM）に関する研究の動向」, 松本祥尚・町田祥弘・関口智和編著『監査報告書論 KAM をめぐる日本および各国の対応』中央経済社, 301-320 ページ。
- 日本公認会計士協会 (2015) 『監査基準委員会研究報告第 4 号 監査品質の枠組み』。
- 日本公認会計士協会 (2018) 『会長声明 『監査基準の改訂に関する意見書』の公表を受けて』。
- 日本公認会計士協会 (2020) 『監査基準委員会研究資料第 1 号 『監査上の主要な検討事項』の早期適用事例分析レポート』。
- 林隆敏編著, 日本公認会計士協会近畿会監査会計委員会編集協力 (2019) 『監査報告の変革 欧州企業の KAM 事例分析』中央経済社。
- 藤井秀樹 (2007) 『制度変化の会計学—会計基準のコンバージェンスを見据えて—』中央経済社。
- 松本祥尚・町田祥弘・関口智和編著 (2020) 『監査報告書論 KAM をめぐる日本および各国の対応』中央経済社。

《謝辞》

本研究は JSPS 科研費 18K01938 の助成を受けたものである。